

とちぎ将来構想

【第二次素案の概要】

平成14年12月18日

栃木県

目 次

策定に当たっての考え方	1
1 第二次素案の趣旨	
2 想定する期間	
3 策定に当たって基本としていること	
「とちぎ将来構想」の構成	2
「とちぎ将来構想」素案の概要	
第一部 とちぎの将来展望 (第一次素案の概要)	3
第一章 時代の潮流	
第二章 とちぎの可能性と課題	
第三章 とちぎの将来像	
第二部 県政の取組方向 (第二次素案の概要)	
“とちぎ”づくりの戦略テーマ	6
戦略テーマ 1 『生きる・まなぶ』～のびやかな「とちぎ人」～	
1 - 1 おおらかで心豊かな人づくり	8
1 - 2 すべての人をやさしく見守る社会づくり	
9	
1 - 3 世界にはばたく人づくり	10
戦略テーマ 2 『うみだす・活かす』～明日を拓く産業・行政～	
2 - 1 とちぎの原動力づくり	11
2 - 2 協働のシステムづくり	12
2 - 3 創造の風土づくり	13
戦略テーマ 3 『楽しむ・ふれあう』～夢ときめく交流社会～	
3 - 1 にぎわいの舞台づくり	14
3 - 2 だれもが主役のパートナーシップ社会づくり	15
3 - 3 とちぎの文化・魅力づくり	16
戦略テーマ 4 『つちかう・伝える』～未来にひきつぐ郷土～	
4 - 1 やすらぎと活力の基盤づくり	17
4 - 2 出会いのネットワークづくり	18
4 - 3 みんなを育む環境づくり	19

策定に当たっての考え方

1 第二次素案の趣旨

少子高齢化、環境問題、国際化やIT化、地方分権の進展など大きな転換期において、すばらしい“とちぎ”を将来の世代に引き継いでいくためには、社会の動きを見極め、長期的な視点を持って戦略的な取組を展開していくことが必要である。

「とちぎ将来構想」は、中長期的視点から展望した県政の課題と、それに対する計画的・戦略的な取組方向を明らかにしようとするものである。

この「第二次素案」は、7月に公表した第一次素案（構想の総論的な役割を担う第1部を記載）に統いて、各論的な役割を担う「第2部」を記載したもので、この素案に対し県民の皆さんから御意見や御提言をいただき、よりよい構想としていくこうとするものである。

2 想定する期間

（1）将来を展望する期間

我が国の人口減少や地球環境問題などの影響が本格的に顕在化・深刻化すると考えられる21世紀中葉までを展望する。

（2）取組方向を想定する期間

具体的な政策の検討が可能な期間として、今後10年～15年後程度を想定し、計画的・戦略的な取組の方向を検討する。

3 策定に当たって基本としていること

（1）“とちぎ”づくりの理念を示す構想

「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”」という将来像を目指し、「分度推譲」を基本理念として、一人ひとりが自立し、個性や能力を十分に発揮しながら計画的に行動することによって豊かさやゆとりを産み出し、互いに譲り合い支え合うことによって、それを共有していく社会を目指す。

（2）県民の皆さんとともに目指す将来像

県が自ら行うものだけでなく、県民や企業、市町村などに期待することなどをも含めて検討し、課題によっては国の制度に対する提言なども積極的に盛り込んでいくなど、「とちぎから創る21世紀の日本」という気概を持ちながら、将来の世代に託せる栃木県づくりを目標に策定する。

（3）長期展望を見据えた戦略的な構想

社会情勢やニーズの変化や、取組方向の見直しが予想される事項などを中心に、戦略的な取組を検討し、県政を網羅するものとはしない。

想定期間は10年～15年後を基本とするが、さらに長期的な視点から取り組む課題についても記載する。また、将来像の実現や課題への対応に有効な政策を、現在の状況や既存の政策にとらわれず、原点に立ち返って十分に検討するなど、幅広い共感が得られる構想とする。

「とちぎ将来構想」の構成

第一部 とちぎの将来展望

第一章 時代の潮流

・今後予想される時代の潮流や社会の変化

第二章 とちぎの可能性と課題

・栃木県の現状・特性と、そこから想定される今後の可能性と課題

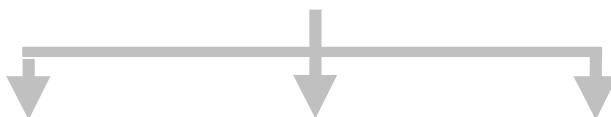
第三章 とちぎの将来像

「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”」



将来像実現のための基本理念

「分度推譲」



“とちぎ”づくりの 行動指針

1 "自" (みずから)を みがく

~いまから明日へ、
自立・自助の礎を
築くために~

2 "絆" (きずな)を つなぐ

~わたしからみんなへ、
互助・協調のネットを
織りなすために~

3 "風" (かぜ)を おこす

~ここから世界へ、
さらなる夢と希望を
実現するために~

第二部 県政の取組方向

”とちぎ“
づくりの

戦略テ
ーマ

1.「生きる・まなぶ」

~のびやかな
「とちぎ人」~

1-1
おおらかで
心豊かな人づくり

1-2
すべての人を
やさしく見守る
社会づくり

1-3
世界にはばたく
人づくり

2.「うみだす・活かす」

~明日を拓く
産業・行政~

2-1
とちぎの
原動力づくり

2-2
協働の
システムづくり

2-3
創造の
風土づくり

3.「楽しむ・ふれあう」

~夢ときめく
交流社会~

3-1
にぎわいの
舞台づくり

3-2
だれもが主役の
パートナーシップ社会
づくり

3-3
とちぎの文化・
魅力づくり

4.「つちかう・伝える」

~未来にひきつぐ
郷土~

4-1
やすらぎと
活力の
基盤づくり

4-2
出会いの
ネットワーク
づくり

4-3
みんなを育む
環境づくり

第一部 とちぎの将来展望（第一次素案の概要）

第一章 時代の潮流

- ・少子高齢・人口減少の時代
- ・地域のあり方の変化
- ・グローバル化
- ・意識や行動様式の変化
- ・社会経済（産業や労働など）のあり方の変化
- ・環境の世纪、水・食料・エネルギー等の制約
- ・高度情報ネットワーク化

第二章 とちぎの可能性と課題

概 要： 栃木県には、優れた自然や田園風景、広大な土地、産業の集積、誠実で勤勉と言われる県民性など、将来の可能性を秘めた資源が多数ある。一方では、国際競争の影響を受けやすい産業構造や、新たな時代の人づくりなど、将来に対する課題も挙げられる。

とちぎの可能性と課題を的確に把握し、可能性を最大限に活かしながら課題の解決を図って、よりよい郷土づくりを目指していくことが必要である。

- ・歴史的経緯に見る可能性と課題
- ・豊かで広大な県土
- ・優れた自然、豊かな環境
- ・豊かな食料基地
- ・住む人にも訪れる人にも魅力あるとちぎ
- ・少子高齢化の進展と人口減少時代
- ・21世紀を拓く原動力
- ・首都圏に近接する恵まれた立地条件
- ・安全な県土、生活の安全
- ・受け継がれてきた優れた文化
- ・新たな経済基盤の創造
- ・重要性を増す健康づくり
- ・多様化する教育への要求

第三章 とちぎの将来像

概 要： 我が国は、明治以来続いたキャッチアップによる成長の時代に別れを告げ、世界のリーダーの一員として真に成熟した国へと生まれ変わろうとしている。

私達は、新たな日本を創造するフロントランナーの気概を持って、このすばらしい郷土“とちぎ”の魅力と可能性を活かし、希望と誇りの持てる自立した地域として自律的に発展させていく。

また、時代の変化に的確に対応し、本県の持つ可能性を最大限に活かしながら、郷土“とちぎ”を、人々が豊かで活力に満ちた生活を営み、自然や街並み、そして人々の心が美しさとやさしさにあふれる郷土としていく。

このような郷土の将来像を

「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”」として、

このすばらしい栃木県を次世代に確実に引き継いでいく。

また、今後の高齢社会は、地域の中で互いに助け合い、喜びを分かち合える社会でなければならない。さらに、私たちを育んでいる環境の容量の限界が明らかになってきた今、私たちの暮らしのものを見つめ直し、環境と共生できるものとしていくことが求められている。

“とちぎ”づくりの基本的方向に向けて、自立と自助、さらに互助による幸福の追求である「分度推譲」を、郷土づくりの基本理念として掲げ、“とちぎ”の魅力と実力を最大限に活かし、この21世紀、郷土「とちぎ」をさらに希望と誇りの持てる県として持続的に発展させていく。

この基本理念に基づく郷土づくりを

「分度推譲立県」として推進していく。

“とちぎ”づくりの行動指針

これから“とちぎ”づくりに向けては、第一に「分度」に基づく人と社会の自立・自助の礎を築く、第二に「推譲」に基づく人と社会の幸せをつむぐ互助・協調のネットを織りなす、そして第三に、自立・自助と互助・協調の基盤の上に、さらなる夢と希望に挑戦する躍動的な活力を巻き起こしていくことが不可欠である。

このためにはまず、個人や企業、行政など地域社会の構成員すべてが、新たな地域社会づくりに向けて行動を起こすことが必要である。

この観点から、からの“とちぎ”づくりの行動指針として、次の三つを掲げる。

1 “自”(みずから)をみがく

～いまから明日へ、自立・自助の礎を築くために～

個人や企業、地域などが今をしっかり見つめ直し、それぞれの持つ個性や能力を最大限に発揮できるよう、計画的に自らを磨き、責任を持って行動していく。

また、様々な価値観や生活像の中から、各人が自由に生き方を選択し、人や自然とのふれあいなどの暮らしの中の喜びや生きがいにも目を向けて、心の豊かさや人間的な豊かさを磨いていく。

“とちぎ”を構成するすべての主体が、自らのもてる資質と能力を一層磨き、熟成していく中から、自立した豊かな“とちぎ”をつくり出していく。

2 “絆”(きずな)をつなぐ

～わたしからみんなへ、互助・協調のネットを織りなすために～

社会を構成するすべての主体が、豊かな心と公共心を持って、他者のため、社会のため、将来の世代のために、自分にできることを自ら考え、行動していく。

この中で各主体が協力・補完し合いながら、人と人、人と社会、人と自然との間に相互の信頼や共生、共助のネットワークを積み重ね、弱者を助け、挑戦者に勇気を与えていく。

地域「みんな」の暖かなコミュニケーションを通して、互いの思いやりや助けあいの心が息づく家族やコミュニティを取り戻し、身近な「安心」や「信頼」の絆をつなぎ合わせていく中から、地域社会を支え、育むセーフティネットとしての社会システムを確立していく。

安心と信頼の絆による「ヒューマンセーフティネット」の輪を拡げ、みんなが共に生きることの喜びを分かち合える、おおらかな“とちぎ”をつくり出していく。

3 “風”(かぜ)をおこす

～ここから世界へ、さらなる夢と希望を実現するために～

自立した「個」と「ヒューマンセーフティネット」の基盤の上に、各主体が常に新たな革新と創造の風を巻き起こしていく。

そのために、多様な個性を互いに認め合い、挑戦しようとする人には誰にもチャンスがあり、たとえ失敗してもやり直しがきく敗者復活型の社会を築いていく。

また、恵み多い環境を将来の世代に引き継いでいくため、ライフスタイルを根本から見つめ直し、全国に、そして世界に先駆けた持続可能な発展を実現する社会づくりに挑戦していく。

“とちぎ”の風土に、“風”を起こし、人々や企業、行政がみずみずしい発想と姿勢を呼び覚ましていく中から、一層ダイナミックな革新性、創造性があふれ、さらなる夢と希望の実現に挑戦し、飛躍できる“とちぎ”をつくり出していく。

第二部 県政の取組方向（第二次素案の概要）

“とちぎ”づくりの戦略テーマ

地域づくりの原点に立ち返って、県民を主体とした“とちぎ”づくりに取り組むため、“とちぎ”の活力を構成する「いとなみ」を以下の4つの側面からとらえ、「“とちぎ”づくりの戦略テーマ」とする。

この4つの戦略テーマについて、「“とちぎ”づくりの行動指針」の視点から、私たちの取り組むべき方向を定め、具体的な政策を構築する。

戦略テーマ 1 『生きる・まなぶ』～のびやかな「とちぎ人」～

地域の活力の源泉は「人」そのものである。“とちぎ”に暮らし、集う人々みんなが、健康的で、人間性豊かで、一人ひとりの個性と能力が發揮でき、性別や世代などの違いを越えてお互いの存在を大切にする“のびやかな「とちぎ人」”の育成を目指す。

戦略テーマ 2 『うみだす・活かす』～明日を拓く産業・行政～

地域社会は、豊かに生きるための財やサービスをうみだす「産業」と、地域社会の「しあわせ」（広義の福祉）の条件を整える公的な「行政」に支えられている。

時代の転換の中で新たな“とちぎ”の進路を切り拓くため、革新性と柔軟性に富み、地域にしっかりと根ざして県民、地域と共に歩む産業と行政の構築を目指す。

戦略テーマ 3 『楽しむ・ふれあう』～夢ときめく交流社会～

“とちぎ”に集う人々が、互いに交流し、助け合うことによって、日々新たな喜びや誇り、生きがいや励みといったみずみずしい「心の豊かさ」を感じながら暮らせる、個性と品格を備えた美しい“とちぎ”をつくり出していく。

そして、“とちぎ”から、独自の誇り高い「文化」が生まれ、「心の豊かさ」が躍動する“とちぎ”ならではの“夢ときめく交流社会”の創成を目指す。

戦略テーマ 4 『つちかう・伝える』～未来にひきつぐ郷土～

社会基盤や環境を、地域みんなの共有財産として改めて再確認し、よりよいものとして次世代へ確実に伝えていく。また、地域社会の基盤である安全な暮らしを確保して快適で魅力あふれる持続可能な“未来にひきつぐ郷土”の創出を目指す。

		“とちぎ”づくりの行動指針		
		“自”をみがく	“縊”をつなぐ	“風”をおこす
“とちぎ”づくりの戦略テーマ	『生きる・まなぶ』 のびやかな「とちぎ人」	おおらかで心豊かな人づくり 心豊かな人を育むシステムづくり 「学ぶ力」あふれる「とちぎ人」の育成 守り育てるみんなの健康 健康を守り支える医療	すべての人をやさしく見守る社会づくり 安心して子どもを生み育てる環境づくり 家族をやさしくつつむ社会づくり 高齢者や障害者などすべての人をやさしく支える社会づくり	世界にはばたく人づくり 国際感覚豊かな地球人づくり 地域に風をおこす人材づくり 高等教育の充実
	『うみだす・活かす』 明日を拓く産業・行政	とちぎの原動力づくり きらりと光る地域中小企業づくり 消費者とともに歩む魅力ある農業 豊かな森林づくりと自然と人をつなぐ林業 新時代の効率的な行政システムづくり 豊かさの時代の行政の進路	協働のシステムづくり 雇用の流動化に対応した新たなシステムづくり 女性や高齢者、障害者の能力を活かす雇用・就業システムづくり 住民自らがつくる自治体	創造の風土づくり とちぎからのチャレンジ精神育成 知のフロンティアとちぎを拓く とちぎを支える新時代の産業づくり(新産業創造システム) とちぎを支える新時代の産業づくり(先端産業誘致)
	『楽しむ・ふれあう』 夢ときめく交流社会	にぎわいの舞台づくり とちぎの魅力をつくるまちづくり 中心市街地の活性化 とちぎの魅力をつくる農山村づくり にぎわいとくつろぎの交流点(観光地づくり)	だれもが主役のパートナーシップ社会づくり 男女共同参画社会づくり 地域コミュニティの活性化 ボランティア・NPO等の活動促進	とちぎの文化・魅力づくり 新しい“とちぎ文化”的創造と継承 世界の国とのパートナーシップ 驚きと感動のとちぎづくり
	『つちかう・伝える』 未来にひきつぐ郷土	やすらぎと活力の基盤づくり 防災力の高い地域づくり 安心して暮らせる地域づくり 新たな時代の社会資本整備 社会情勢の変化に対応した土地利用	出会いのネットワークづくり とちぎの自立と交流を支える交通基盤整備 人と環境にやさしい交通体系づくり 誰でも使いこなせる情報社会づくり	みんなを育む環境づくり 循環型社会に向けたライフスタイルづくり 循環型社会のシステムづくり 生活環境の保全 とちぎの自然を伝えるシステムづくり

戦略テーマ 1 『生きる・まなぶ』～のびやかな「とちぎ人」～

地域の活力の源泉は「人」そのものである。“とちぎ”に暮らし、集う人々みんなが、健康的で、人間性豊かで、一人ひとりの個性と能力が発揮でき、性別や世代などの違いを越えてお互いの存在を大切にする“のびやかな「とちぎ人」”の育成を目指す。

1-1 おおらかで心豊かな人づくり

行動指針1 “自”(みずから)をみがく

～いまから明日へ、自立・自助の礎を築くために～

地域の全ての人々が常に自らを高め、生きがいをもって健やかに暮らしていくことが、地域の豊かさの源である。

県民一人ひとりが豊かな心を持って自立し、健康で優れた能力を発揮できるよう、“のびやかな「とちぎ人」”の育成に向け、心、知恵、健康の面において常に自己を高めていけるシステムをつくり、美しく活力にあふれた“とちぎ”づくりを担う、おおらかで心豊かな人づくりを目指していく。

1-1-1 心豊かな人を育むシステムづくり

本文 P.2

個を大切にしつつ社会の一員としての自覚も失うことのない、しっかりとした感覚を備えた青少年を育んでいくため、いじめや非行などの防止を図り、また、体験学習や福祉教育など、実社会での体験や地域社会との交流などにより、他者への思いやりの心や互いの多様な価値観を認め合う心を持った人間を育てていく。

1-1-2 「学ぶ力」あふれる「とちぎ人」の育成

本文 P.4

「知恵の時代」において我が国を支える人材の育成に向けて、子どもたちに学ぶことの楽しさを教え、学力の向上を目指す。また、多様な学びの場や特色のある学校づくりにより、各人の個性、能力に応じた教育システムの構築を目指す。

1-1-3 守り育てるみんなの健康

本文 P.6

本県の大きな課題である生活習慣病の予防に向け、食生活の改善や病気の早期発見・早期治療、スポーツ活動の普及等を進め、生活の改善に取り組む。

また、高齢者が社会の重要な担い手として健康で心豊かな生活を送れるよう、心とからだの健康の維持増進に向け、健康づくり、生きがいづくり、介護予防対策などを推進する。

1-1-4 健康を守り支える医療

本文 P.8

最新医療技術の導入、医療情報の提供、地域医療体制の充実などにより、多様な選択が可能な医療体制や療養対策を構築し、全ての人々が健康を享受し、人としての尊厳ある寿命を全うできる社会を築く。

1 - 2 すべての人をやさしく見守る社会づくり

行動指針2 “絆”(きずな)をつなぐ

～わたしからみんなへ、互助・協調のネットを織りなすために～

家族や地域を単位としたコミュニティは、社会の基礎単位の一つとして大きな役割を果たしてきたが、近年、その活力や機能の低下が懸念されている。また、少子化が進行する中で、安心して子どもを生み育てる環境を整え、地域全体で子どもの健やかな生育を図ることが重要になっている。

“のびやかな「とちぎ人」”の育成に向けて、地域の良さを活かしながら、互いの命や心、異なる価値観を尊重し、外部との関わりや相互の助け合いなどを大切にする開かれたコミュニティづくりを目指していく。

1-2-1 安心して子どもを生み育てる環境づくり

本文 P.11

子育てを男女が共に担い、共働きの夫婦も安心して子育てができるよう、男性の育児参加や多様な子育てニーズに応えられる保育サービスの充実、地域における子育て支援体制の整備など、子育てを社会全体で支えていくシステムづくりを進め、子どもたちの笑顔と歓声が絶えることのない地域社会づくりを目指す。

1-2-2 家族をやさしくつみこむ社会づくり

本文 P.12

近年大きな問題となっている配偶者等による暴力（ドメスティックバイオレンス＝DV）や児童虐待について、未然防止と早期発見、被害者への支援、加害者への対応などの対策を充実する。

思いやりや助け合いの大切さ、心の通う暖かさを実感できるような家庭づくりに向けて、地域社会ぐるみの総合的な支援体制の整備を目指す。

1-2-3 高齢者や障害者などすべての人をやさしく支える社会づくり

本文 P.13

地域で生活しているすべての人が、相互に支え合い、それぞれの年齢、健康状態、障害の有無や程度に合わせて、個々の生活パターンを尊重した支援を受けられるよう、地域内での生活支援や生きがいづくりなどサービス基盤の整備、就労への支援などを進め、人をやさしく支えることができる社会づくりを目指す。

1 - 3 世界にはばたく人づくり

行動指針3 “風”(かぜ)をおこす

～ここから世界へ、さらなる夢と希望を実現するために～

経済においても文化においても国際的な交流が進み、世界が一つになっていく中で、世界で活躍できる新しい人材の育成が重要になっている。

グローバル化が進む社会で活躍していくためには、一人ひとりが独創性と国際感覚やチャレンジ精神を持ち、新しい風をおこしていけるようになることが重要である。

このため、独創性やチャレンジ精神、国際感覚を培い、我が国や外国の伝統・文化を尊重しながら日本人としての誇りとアイデンティティを持って行動できる、世界にはばたく人づくりを目指す。

1-3-1 國際感覚豊かな地球人づくり

本文 P.17

他国の文化も共感的に理解し、尊重しながら、共に21世紀を生きていくための資質や能力を育むため、外国語教育や国際理解教育の一層の充実を図る。

また、地域において、外国人と相互に理解し合いながら共に暮らしていくため、「草の根」レベルでの国際化を進め、豊かな国際感覚を醸成していく。

1-3-2 地球に風をおこす人材づくり

本文 P.18

今後の本県や我が国の発展のためには、独創的な科学技術や経営モデルの開発など、新たなものを創造する能力や課題解決能力を持った人を育てていくことが重要である。

それぞれの学習意欲や能力に応じて個々人の潜在能力を最大限に引き出し、創造性や柔軟性、チャレンジ精神などを育んでいく。

1-3-3 高等教育の充実

本文 P.20

「知恵の社会」で求められる人材を育成していくためには、県内の大学が有する“知”的集積やノウハウを十分に活用していくことが必要である。

このため、大学と産業界との連携、生涯学習や社会人教育への対応、高度な専門性をもつ人材の育成など、大学からの地域社会への貢献を促進し、また、社会の変化や県民のニーズに対応した柔軟な高等教育の機会の充実を図る。

戦略テーマ 2 『うみだす・活かす』～明日を拓く産業・行政～

地域社会は、豊かに生きるための財やサービスを生み出す「産業」と、公共の福祉を実現し、暮らしの条件を整える公的な「行政」に支えられている。

時代の転換の中で新たな“とちぎ”の進路を切り拓くため、革新性と柔軟性に富み、地域にしっかりと根ざして県民、地域と共に歩む産業と行政の構築を目指す。

2-1 とちぎの原動力づくり

行動指針1 “自”(みずから)をみがく

～いまから明日へ、自立・自助の礎を築くために

～

グローバル化による国際競争の激化や、行政と住民との役割の変化が進む中で、行政も産業も絶えざる革新を求められている。

栃木県の産業や行政が、その自立性を高め、“とちぎ”の活力と美しさを支え、明日を拓いていくため、自らの力を蓄え、時代を先取りしていく“とちぎ”の原動力づくりを目指す。

2-1-1 きらりと光る地域中小企業づくり 本文 P.23

国際分業の進展やサービス経済化に対応していくため、高付加価値型産業への転換や地域に内在する豊富な資源や人材を活かした内発型産業の振興を図り、きらりと光る中小企業づくりを目指す。

2-1-2 消費者とともに歩む魅力ある農業 本文 P.25

多様な消費者ニーズに対応し、地域の特性を活かした特徴ある商品を創出する農業への転換を図るとともに、多様な人材が活躍可能な魅力ある農業経営を目指す。

2-1-3 豊かな森林づくりと自然と人をつなぐ林業 本文 P.28

森林の多面的な機能を持続して発揮できる森林の整備と、それを支えていく林業の振興を図るため、人と環境にやさしい木材の循環利用を促進するとともに、就業機会の増大により山村地域の定住人口の確保と活力の向上を目指す。

2-1-4 新時代の効率的な行政システムづくり 本文 P.30

自主性と創意工夫に富んだ地方自治体を目指して、政策立案能力の向上や地方税中心の歳入体系の構築を図る。また、国と地方の関係、最適な行政サービスが提供できる地方自治体の大きさなど、住民や地域のレベルからの議論を重ねていく。

2-1-5 豊かさの時代の行政の進路 本文 P.31

地方分権や住民参加、行政の効率化などの流れを受けて、住民自らが負担と行政サービスの水準や活動主体について責任と主体性ある決断を重ね、新時代の“とちぎ”にふさわしい、住民が主役の行政システムを築き上げていく。

2 - 2 協働のシステムづくり

行動指針2 “絆”(きずな)をつなぐ

~わたしからみんなへ、互助・協調のネットを織りなすために

~

グローバル化の進展により企業間競争が激化する中で、雇用の不安定化や人々の将来への不安も高まってきており、一方では、意識や行動様式の変化により、自己実現を大切にした働き方が拡がりつつある。

また、地域のあり方の変化により、これまでの行政の仕組みや役割を変えていくことが求められている。

そこで、就業者と企業が、そして住民と行政が協働しながら、地域のニーズに応えていく、新時代の“とちぎ”の協働のシステムづくりを目指していく。

2-2-1 雇用の流動化に対応した新たなシステムづくり

本文 P.35

今後、雇用が流動化し、多様な就労形態が想定される中で、個々の労働者の職業能力の向上や、短期間労働など多様な就労形態を可能とする諸制度の整備、雇用のセーフティネットの充実等を進め、年齢や性別に関わらず働くことのできる社会の実現を目指す。

2-2-2 女性や高齢者、障害者の能力を活かす雇用・就業システムづくり 本文 P.36

長期的な視点に立って、今後の労働力減少に対応していくためには、就労意欲のある女性や高齢者、障害者など様々な人の力を活かしていくことや、若年者などの確実な就労が必要である。

このため、女性や高齢者などが条件に合わせて就労できるシステムの整備や、若年労働者などの育成、雇用のミスマッチの解消などを進め、多様な力が活用できる雇用・就業環境の整備を進めていく。

2-2-3 住民自らがつくる自治体

本文 P.37

行政や地域づくりのあり方が見直される中で、住民の創意と知恵を活かし、これまで行政が担ってきた役割の一部を、住民自らが「新たな『公(おおやけ)』」として担っていこうとする動きが様々な分野や地域に広がっている。

このため、行政が関与すべき範囲を再検討し、住民の知恵を活かしたまちづくりの仕組みなど、住民参加の政策手法を充実し、行政と県民がパートナーとしてお互いに協力する体制づくりを進めていく。

2 - 3 創造の風土づくり

行動指針3 “風”(かぜ)をおこす

~ ここから世界へ、さらなる夢と希望を実現するために ~

国際的な競争が激化し、産業構造が大きく変化する中で、新しい付加価値を持続的につくり出していく産業を育てていくことが地域経済の大きな課題となっている。

このため、知恵や創造力、そしてチャレンジ精神を育み、それに立脚した新しい技術やノウハウ、そして新しい価値の創造に挑戦していく風土をつくり、競争力ある産業が支える活気ある地域づくりを目指す。

2-3-1 とちぎからのチャレンジ精神育成

本文 P.41

起業家が生まれる風土、気運の醸成、中小企業の新分野挑戦への支援、失敗を糧として再びチャレンジすることのできるセーフティーネットの構築などにより、起業や新事業への挑戦の気風をつくり、起業を志す人達が夢と勇気を持って具体的な行動を起こせる“とちぎ”を目指していく。

2-3-2 知のフロンティアとちぎを拓く

本文 P.42

今後の経済の発展を支える科学技術などの振興を図るため、初等中等教育の段階から、理数教育や科学への興味関心を育む教育の充実、公的試験研究機関や民間における研究開発の充実、産学共同研究の促進、研究開発成果の事業化の促進などにより、科学技術立国そのための基盤整備を進めていく。

2-3-3 とちぎを支える新時代の産業づくり（新産業創造システム）

本文 P.43

情報通信関連産業、高齢者関連産業、環境関連産業など、今後成長が見込まれる分野を中心に、新しい価値をつくり出していく産業を育てるため、本県の持つこれまでの産業集積や高等教育機関など、地域の力を結集、融合しながら、持続的に新時代の産業をつくり出していくシステムの構築を目指す。

2-3-4 とちぎを支える新時代の産業づくり（先端産業誘致）

本文 P.45

県内のこれまでの産業集積や産業基盤を生かし、新たな成長産業のさらなる立地や既存立地工場の存続・発展などを促進し、新しい技術やノウハウ、人材などを県内に集積させ、“とちぎ”を支える新時代の産業をつくりあげていく。

戦略テーマ 3 『楽しむ・ふれあう』～夢ときめく交流社会～

“とちぎ”に集う人々が、互いに交流し、助け合うことによって、日々新たな喜びや誇り、生きがいや励みといったみずみずしい「心の豊かさ」を感じながら暮らせる、個性と品格を備えた美しい“とちぎ”をつくり出していく。

そして、“とちぎ”から、独自の誇り高い「文化」が生まれ、「心の豊かさ」が躍動する“とちぎ”ならではの“夢ときめく交流社会”的創生を目指す。

3-1 にぎわいの舞台づくり

行動指針1 “自”(みずから)をみがく

～いまから明日へ、自立・自助の礎を築くために～

本県の特徴である、都会的な利便性と自然とふれあいながら暮らせる快適性の両面にさらに磨きをかけ、生活の豊かさを実感できる地域をつくることが求められている。

夢ときめく交流社会の創生のために、魅力と活力のあるまちづくりやむらづくり、魅力ある観光地づくりを進め、様々な交流が生まれる環境をつくる。

そして多くの人々がそこに参画し、交流の中から新しい文化や情報が発信される、にぎわいの舞台づくりを目指していく。

3-1-1 とちぎの魅力をつくるまちづくり

本文 P.48

住む人も訪れる人も楽しく豊かに過ごせるまちを実現するため、地域の持つ多彩な資源を活かしながら、高齢化時代にふさわしいユニバーサルデザインの都市空間や効率的でコンパクトな生活空間の構築、良質な住宅や居住環境の提供など、機能的で持続可能な魅力ある空間づくりを進める。

3-1-2 中心市街地の活性化

本文 P.50

中心市街地において、人間中心で利便性の高い、うるおいある環境の整備、魅力ある商店街づくり、高齢者への対応などを推進し、人が出会い、文化が生まれ、豊かさを感じられる、まちの「顔」として、中心市街地を再生していく。

3-1-3 とちぎの魅力をつくる農山村づくり

本文 P.51

“とちぎ”的魅力を支える農山村の重要性を再認識し、農山村地域定住のための条件整備、農山村の多面的機能の保全などによりその魅力を磨き、高めることにより、人々が楽しく暮らせ、多くの出会いが生まれるにぎわいの舞台として、活気あふれる農山村づくりを目指す。

3-1-4 にぎわいとくつろぎの交流点（観光地づくり）

本文 P.53

にぎわいのある観光“とちぎ”的一層の充実・強化を目指し、本県の誇る豊富な観光資源のさらなる充実、高齢者や外国人などの観光客への対応、自然の活用やグリーンツーリズムなど、これからニーズに合った観光地づくり、自然保護や交通問題への対応などを進める。

3 - 2 だれもが主役のパートナーシップ社会づくり

行動指針2 “絆”(きずな)をつなぐ

~わたしからみんなへ、互助・協調のネットを織りなすために~

地域社会の連帯感や人間関係が希薄化する中で、地域の持つ様々な機能の低下が指摘されており、地域コミュニティの再構築が必要になっている。

そのため、全ての人々が“とちぎ”の地域社会に積極的に参画し、そこでお互いにふれあい、郷土への思いを深め、楽しい社会の構築に参画していく仕組みをつくっていく。

“夢ときめく交流社会”の創生のために、県民一人ひとりが積極的に参加・協力し、男女や世代間の垣根を越えた助け合いや交流によって、新しい創造や喜び、生きがいづくりや地域への愛着心の深まりなどをもたらす、助け合いのパートナーシップをつくることを目指す。

3-2-1 男女共同参画社会づくり

本文 P.57

家庭や教育、企業などあらゆる場で、男女共同参画のための意識の変革や環境の整備を行い、パパ・クオータ制の導入の検討や、女性のエンパワーメント、人権の確立などを進めることにより、男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる活動に参画し、共に責任を担う男女共同参画社会を実現し、全員参加のパートナーシップ社会づくりを目指す。

3-2-2 地域コミュニティの活性化

本文 P.57

地域における互助や地域社会の持つ様々な機能を活性化するため、自治会や青年団といった既存住民組織の再生や、ボランティアやNPO等地域の新たな担い手の育成とコミュニティへの積極的な参画、「企業市民」のコミュニティ活動への参画などを促進し、自立と自助、そして互助による活力あふれる地域社会づくりを目指す。

3-2-3 ボランティア・NPO等の活動促進

本文 P.59

ボランティアやNPOなど住民主体のセクターと企業、行政が適切なパートナーシップの中で協力し合う社会を目指すため、一人ひとりの社会貢献意識を高めるとともに、それを実際の活動へと結びつける受け皿として、ボランティアやNPOなどの自立・成長を促していく。

また、NPOの特性を活かして、地域の課題解決や官と民の間の連携や、地域における就労機会増加などを図る。

3 - 3 とちぎの文化・魅力づくり

行動指針3 “風”(かぜ)をおこす

~ここから世界へ、さらなる夢と希望を実現するために~

だれもが心の豊かさを感じながら暮らしていける地域をつくっていくため、歴史が培ってきた地域の文化や伝統などを大切に引き継ぎながら、さらに新しい文化の創造に取り組んでいく。

また、世界の人と身近な関わり合いをつくり上げ、地域に様々な風を呼び込み、通わせながら、世界の文化の素晴らしさとともに、改めて郷土の文化や魅力を再確認し、全国に、そして世界に伝えていく。

“夢ときめく交流社会”の創生に向け、郷土の魅力を再発見し、発信しながら、新たな行動や創造性、文化などを生み育っていく。

3-3-1 新しい“とちぎ文化”の創造と継承

本文 P.63

県民が生涯を通じて文化を身近に感じ、個性豊かな文化活動を活発に展開できるよう、文化に親しむ環境を整備し、地域の大切な文化遺産の保護・継承に努める。

また、多様な文化芸術への参加や地域を核とした食文化の創造など、県民一人ひとりが楽しみながら新しい“とちぎ”の文化をつくりあげ、心の豊かさを実感できる社会の実現を目指す。

3-3-2 世界の国とのパートナーシップ

本文 P.64

次の時代の“とちぎ”を創造し、飛躍していくために、文化や経済の交流、国際協力活動、草の根レベルからの地域・都市間交流など様々な国際交流を進め、県民一人ひとりが地球社会の一員として行動し、さらに“とちぎ”に新たな風を呼び込み、世界の国とのパートナーシップを築いていくことを目指す。

3-3-3 驚きと感動のとちぎづくり

本文 P.66

地域の自然や文化、歴史遺産、特産物など、新たな魅力を掘り起こし、再発見しながら、地域の個性をアピールする文化を育て、全国に郷土のイメージを発信していく。

また、それを県民が意識し、育て、外に向かって発信していくことで、新たな風をおこし、“とちぎ”の魅力に磨きをかけ、さらに新たな魅力をつくり出していく。

戦略テーマ 4 『つちかう・伝える』 ~未来にひきつぐ郷土~

社会基盤や環境を、地域みんなの共有財産として再確認し、よりよいものとして次世代へ確実に伝えていく。また、地域社会の基盤である安全な暮らしを確保して、快適で魅力あふれる持続可能な“未来にひきつぐ郷土”の創出を目指す。

4-1 やすらぎと活力の基盤づくり

行動指針1 “自”(みずから)をみがく

~いまから明日へ、自立・自助の礎を築くために~

“とちぎ”のまちやむらが、世界に誇れる美しさ、安心や安全を備え、誰にもやさしい空間となるよう、また次世代へと責任を持って引き継いでいくことができるよう、やすらぎの空間づくりを目指す。

そのために、安心、安全で利便性の高い暮らしや事業活動が展開できるような、防災や治安対策、県土保全や秩序ある土地利用への誘導、次世代に引き継ぐにふさわしい社会資本等の基盤づくりなどを進めていく。

4-1-1 防災力の高い地域づくり

本文 P.68

防災力向上を図るため、防災基盤の整備などのハード対策と多様なソフト対策を組み合わせ、災害の未然防止と被害最小化に向けた総合的な防災体制の充実を図る。また、多様な主体による積極的な参加と連携による協働の地域防災体制の充実を図り、安全に暮らせる地域づくりを目指す。

4-1-2 安心して暮らせる地域づくり

本文 P.69

増加する犯罪に対応していくため、捜査体制の充実強化、情報化時代の犯罪対策などに取り組むとともに、地域ぐるみでの治安対策、地域住民による防犯体制の強化や青少年の非行防止対策などを進め、安心して暮らせる地域づくりを目指す。

4-1-3 新たな時代の社会資本整備

本文 P.72

今後、投資余力の減少が予想される中で、真に必要な社会資本を効率的に整備していくため、環境と調和した社会資本の整備や、量から質の向上に視点を置いた社会資本整備、既存ストックの有効活用、コスト縮減を徹底し、社会資本のライフサイクルマネジメントなどを推進していく。

4-1-4 社会情勢の変化に対応した土地利用

本文 P.73

新たな時代に対応した秩序ある土地利用を図るため、人口減少や産業構造の変化など社会情勢や土地需要の変化、土地利用に求められる条件などを十分に考慮した上で、適切な土地利用を誘導していくことにより、新たな時代に対応した暮らしやすく活力のあるまちを目指す。

4 - 2 出会いのネットワークづくり

行動指針2 “絆”(きずな)をつなぐ

~わたしからみんなへ、互助・協調のネットを織りなすために~

グローバル化の進展や情報通信技術の発達の中で、人々の活動圏域はますます広がり、県内はもとより、全国や海外との交流が活発になることが予想される。この中で、わたしたちの活動や交流を支える交通や情報通信の基盤の充実が不可欠になっている。

“未来にひきつぐ郷土”の創出に向け、県内や国内はもちろんのこと、世界と結びつく様々な「道」である交通基盤や情報通信基盤とそれらを活用する環境を充実して、広く世界と交流し、新しい信頼関係を築いていく出会いのネットワークづくりを目指していく。

4-2-1 とちぎの自立と交流を支える交通基盤整備

本文 P.76

県内移動の円滑性の向上を図り、産業活動の活性化や県民の利便性向上を図るため、海外へのアクセス道路や広域的な交流促進のための道路整備などを推進し、誰もが安全で快適に、出会いややすらぎなどを求め移動できる交通環境の実現を目指す。

4-2-2 人と環境にやさしい交通体系づくり

本文 P.77

人と環境にやさしい交通体系をつくっていくため、公共交通や歩行、自転車といった交通手段を再評価し、各交通手段のバランスのとれた、環境負荷の少ない交通体系の構築を目指す。

このため、各交通手段の利便性や快適性、自動車交通との適正な補完性を高める取組を進めていく。

4-2-3 誰でも使いこなせる情報社会づくり

本文 P.79

急速に進展する情報通信技術と社会の変化に対応して、誰もがITを活用し、より快適で豊かな暮らしを実現できる社会を目指す。

このため、誰もがどこにいても最適な利用環境からセキュリティの高い高速ネットワークに接続でき、自在にサービスを利用できるようなユビキタスネットワーク社会をつくっていく。

4 - 3 みんなを育む環境づくり

行動指針3 “風”(かぜ)をおこす

～ここから世界へ、さらなる夢と希望を実現するために～

環境の世紀を迎え、その基盤となる環境を守り、子孫に引き継いでいくことの重要性がこれまで以上に高まっている。このすばらしい環境を守っていくためには、県民、企業、行政など全ての主体の参加による実効性ある早急な取組とともに、世代を超えた長期的、継続的な取組が求められている。

“未来にひきつぐ郷土”に向け、21世紀に持続的に発展できる「美しいとちぎ」を創造し、循環型社会の構築や豊かな自然環境の保全に向けた様々な取組により、みんなを育む環境づくりを目指す。

4-3-1 循環型社会に向けたライフスタイルづくり

本文 P.82

県民一人ひとりが環境問題を自らの問題として意識し、行動できるよう、社会全体における環境学習を充実させ、地域コミュニティや県民、企業、行政がそれぞれ環境への負荷低減のための取組を進める。また、省エネやクリーンエネルギーへの転換を進め、循環型社会のライフスタイルづくりを目指す。

4-3-2 循環型社会のシステムづくり

本文 P.84

循環型社会を構築するため、動脈産業のグリーン化や静脈産業の育成などにより、廃棄物の排出抑制とリサイクルを推進するとともに、廃棄物処理施設の整備を進め、未来に引き継ぐ循環型都市のシステムづくりを目指す。

4-3-3 生活環境の保全

本文 P.86

本県の豊かな水質資源を未来に引き継ぐため、流域という広い空間で下流域との連携を図りながら、総合的な保全対策を講じることにより、健全な水循環型社会を構築していく。

また、化学物質対策について、県民、企業、行政が相互理解を図るためのリスクコミュニケーションを推進する。

4-3-4 とちぎの自然を伝えるシステムづくり

本文 P.87

本県の豊かな自然環境を保全し、未来に引き継ぐため、豊かな水環境の保全や環境アセスメント制度の充実などを進め、“とちぎ”の自然を伝えるシステムづくりを推進する。